



Ideas & Chemistry

2015.11.6

2015年度第2四半期 決算説明会資料



東洋紡株式会社

決算のポイント

上期実績

- 前年同期比、営業利益16%増益。当期純利益は倍増(106%増)。
- 原燃料価格低下あるも、液晶TV・国内自動車関連で苦戦。
- コスモサインSRFは計画未達。エンプラ・エアバッグなど海外展開進む。

下期予想

下期は、新製品の拡大など収益改善を見込むも、
市場環境に不透明感もあり、通期予想は下記の通り修正する。

	14年度			15年度			直近見通し (2015/8)
	上期	下期		上期	下期		
売上高	1,723	1,790	3,513	1,797	1,853	3,650	3,650
営業利益	90	115	206	105	125	230	240
当期純利益	26	55	81	54	61	115	120

I . 2015年度第2四半期決算概況

(1) 決算概要 ①PL・CF

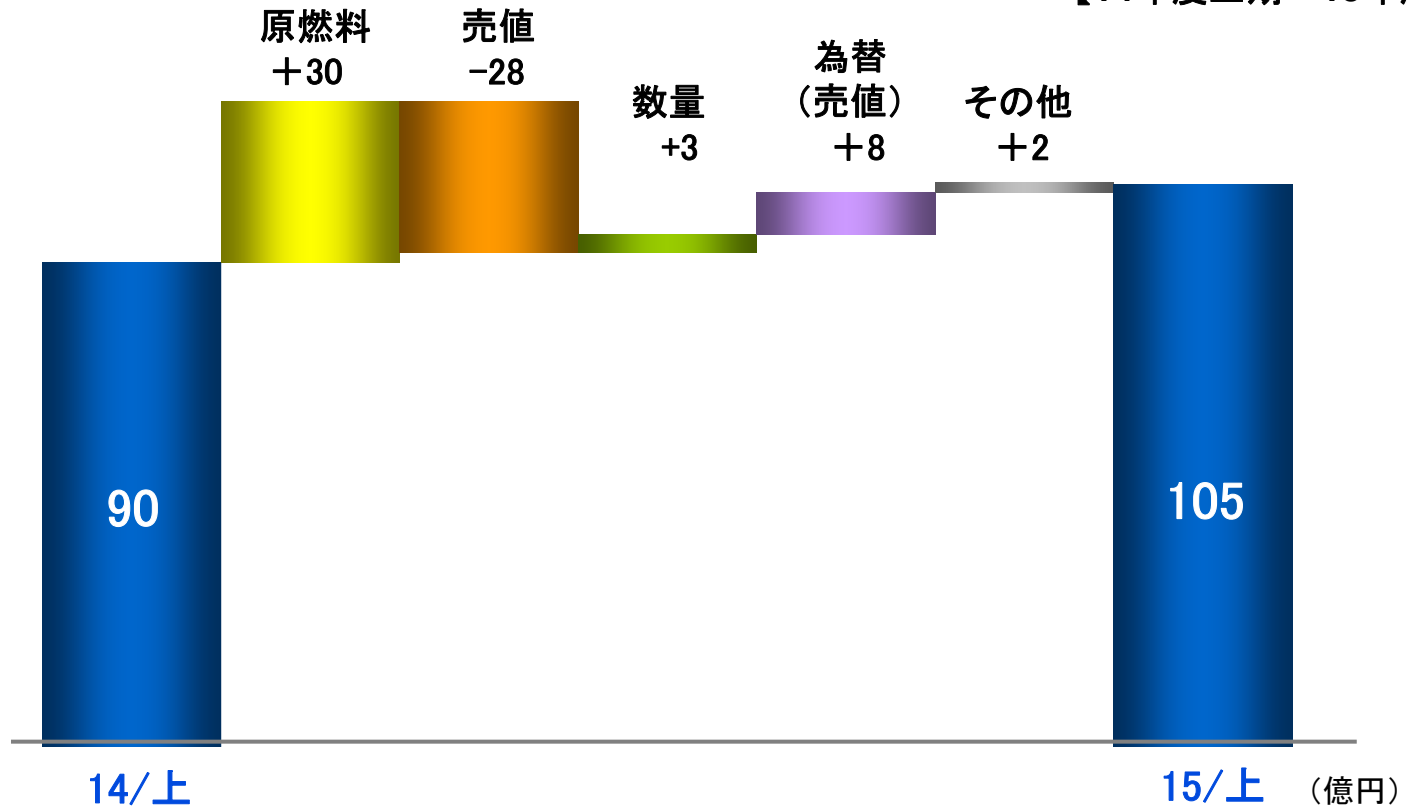
原料チェーン改革費用等が減少し、当期純利益は倍増

(億円)

	14上	14下	15上	前年同期比		直近見通し (2015/8)
				金額	率	
売上高	1,723	1,790	1,797	+74	+4.3%	1,750
営業利益	90	115	105	+15	+16.4%	110
(率)	5.2%	6.5%	5.8%	-	-	6.3%
経常利益	53	110	97	+44	+83.5%	100
親会社株主に帰属する 当期純利益	26	55	54	+28	+106.4%	55
EPS(円)	2.9	6.2	6.0	-	-	
減価償却費	75	74	71	-4	-5.2%	
設備投資	80	95	73	-7	-9.1%	
営業CF	85	116	129	+45	+52.6%	
為替レート(円/US\$)	103	117	122			
国産ナフサ価格(千円/KL)	71	57	48			

営業利益増減要因分析（前年同期比）

【14年度上期→15年度上期】



	14上	15上
円レート (¥/\$)	103	122
国産ナフサ (千円/kl)	71	48

②BS

財務体質の改善が進展

	14/3末	15/3末	15/9末	(億円) 15/3末比 増減
総資産	4,563	4,658	4,566	-92
純資産	1,451	1,611	1,628	+17
自己資本	1,423	1,580	1,596	+16
(自己資本比率)	31.2%	33.9%	35.0%	
有利子負債	1,707	1,771	1,726	-45
D/E レシオ	1.20	1.12	1.08	

(2) セグメント別

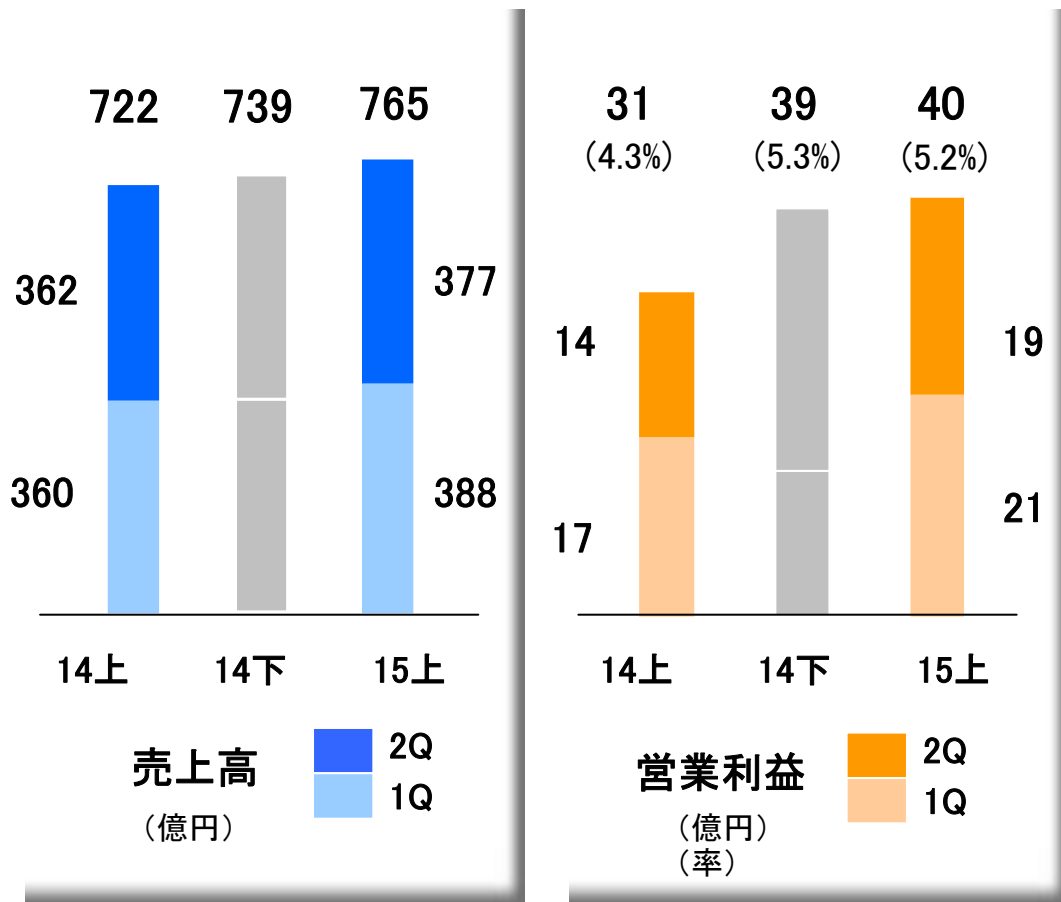
(億円)

	売上高			営業利益			前年同期比
	14上	14下	15上	14上	14下	15上	
フィルム・機能樹脂	722	739	765	31	39	40	+9
産業マテリアル	341	374	353	30	36	32	+3
ヘルスケア	141	147	135	23	27	21	-2
スペシャルティ計 (営業利益率)	1,204	1,259	1,253	84 7.0%	103 8.1%	94 7.5%	+10
繊維・商事	428	423	438	9	14	12	+2
不動産・その他	92	107	105	12	15	15	+3
消去・全社	-	-	-	-14	-16	-15	-1
合計	1,723	1,790	1,797	90	115	105	+15

※セグメント情報は、組織体制の見直しに伴う、セグメント組換え後の区分方法に基づき作成

① フィルム・機能樹脂

包装用フィルムは、出荷堅調。
工業用フィルムは、液晶TV市場の調整あるも、
新設備・新製品関連費用の減少が底上げ



● 包装用フィルム

- ・天候に恵まれ、食品用で数量増
- ・原料安を背景とした価格改定

● 工業用フィルム

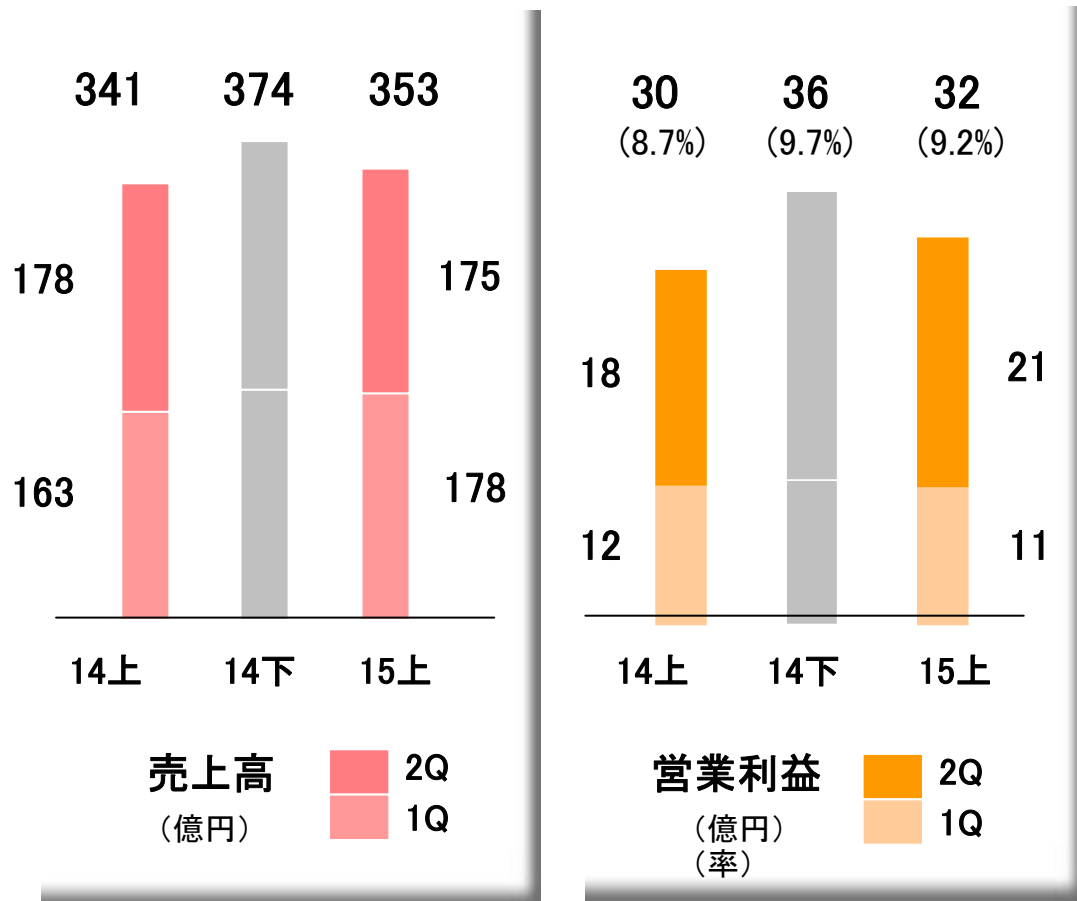
- ・コスモシャインSRFは、拡大基調
- ・新設備・新製品関連費用の減少

● 機能樹脂

- ・エンプラは、海外で拡大
- ・バイロンは、缶塗料、電子材料関連で苦戦

② 産業マテリアル

スーパー繊維や機能フィルターが好調
 エアバッグ用基布は、国内自動車生産台数減の影響あり



● スーパー繊維

- ・ザイロンが耐熱用途で好調
- ・ツヌーガが手袋用途で拡大

● 機能フィルター

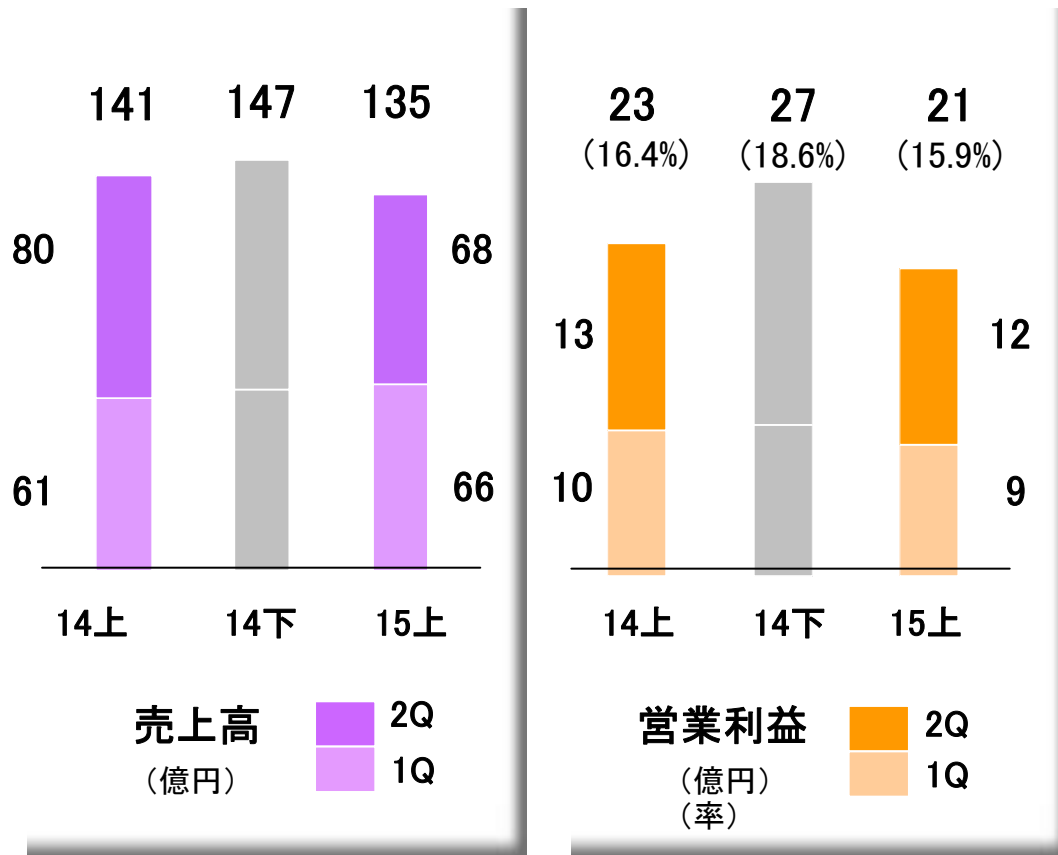
- ・VOC回収装置は、アジア市場で市況改善

● エアバッグ用基布

- ・国内自動車市場の影響
- ・海外での拠点整備を継続

③ ヘルスケア

バイオは堅調に推移も、医薬が受託案件延期の影響を受け苦戦
ナーブリッジは着実に症例数を伸ばすも、計画未達



● バイオ

- ・主力の診断薬用酵素は堅調
- ・ライフサイエンス用試薬が好調

● 医薬

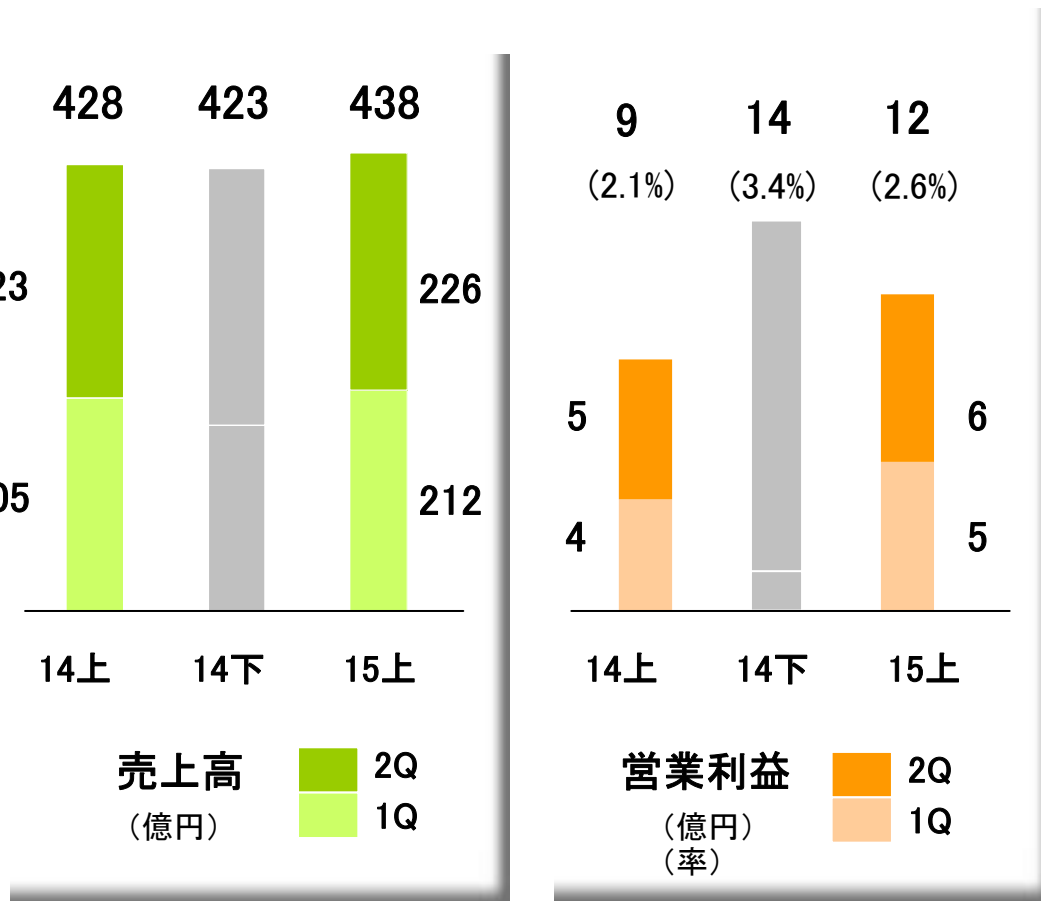
- ・受託案件延期の影響で苦戦

● 医療機器

- ・ナーブリッジは、症例数増加

④ 繊維・商事

中東向けが、円安効果もあり好調
 アクリル繊維は、中国市況の軟化で苦戦



● 東洋紡STC(繊維)

- ・中東向けトープが市況改善と円安効果で好調

● 海外関係会社

- ・中米事業の市況回復

● アクリル繊維

- ・中国市況の軟化で苦戦

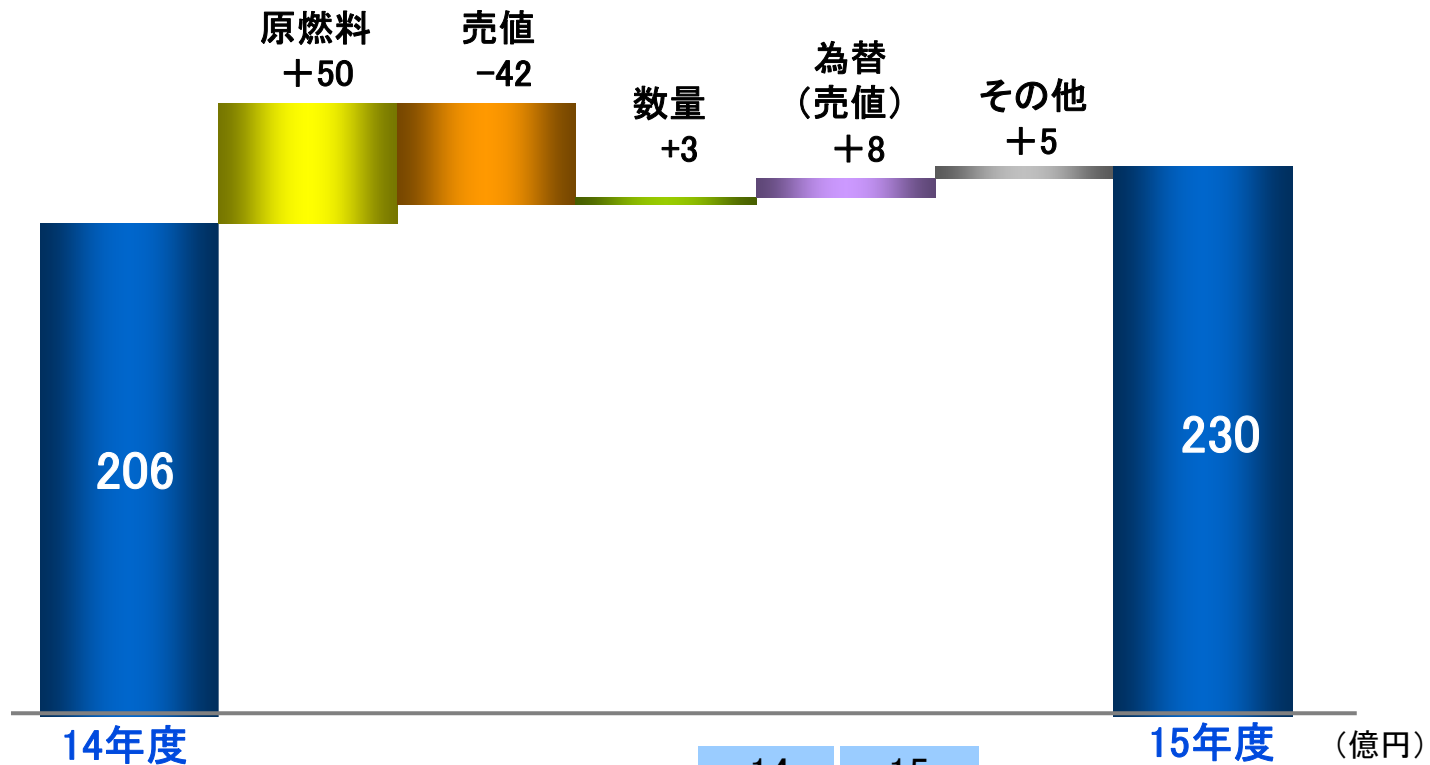
Ⅱ. 2015年度業績予想

(1) 業績予想

	(億円)						
	14年度実績	15年度予想			増減		直近見通し (2015/8)
		上	下		金額	率	
売上高	3,513	1,797	1,853	3,650	+137	+3.9%	3,650
営業利益	206	105	125	230	+24	+11.8%	240
(率)	5.9%	5.8%	6.7%	6.3%	-	-	6.6%
経常利益	163	97	113	210	+47	+29.2%	220
親会社株主に帰属する 当期純利益	81	54	61	115	+34	+41.7%	120
EPS(円)	9.1	6.0	6.9	13.0	-	-	13.5
減価償却費	149	71	84	155	+6	+3.9%	155
設備投資	175	73	107	180	+5	+2.9%	180
為替レート(円/US\$)	110	122	120	121			118
国産ナフサ価格(千円/KL)	64	48	45	47			60

営業利益増減要因予想

【14年度→15年度】



	14	15
円レート (¥/\$)	110	121
国産ナフサ (千円/kl)	64	47

(2) セグメント別予想

(億円)

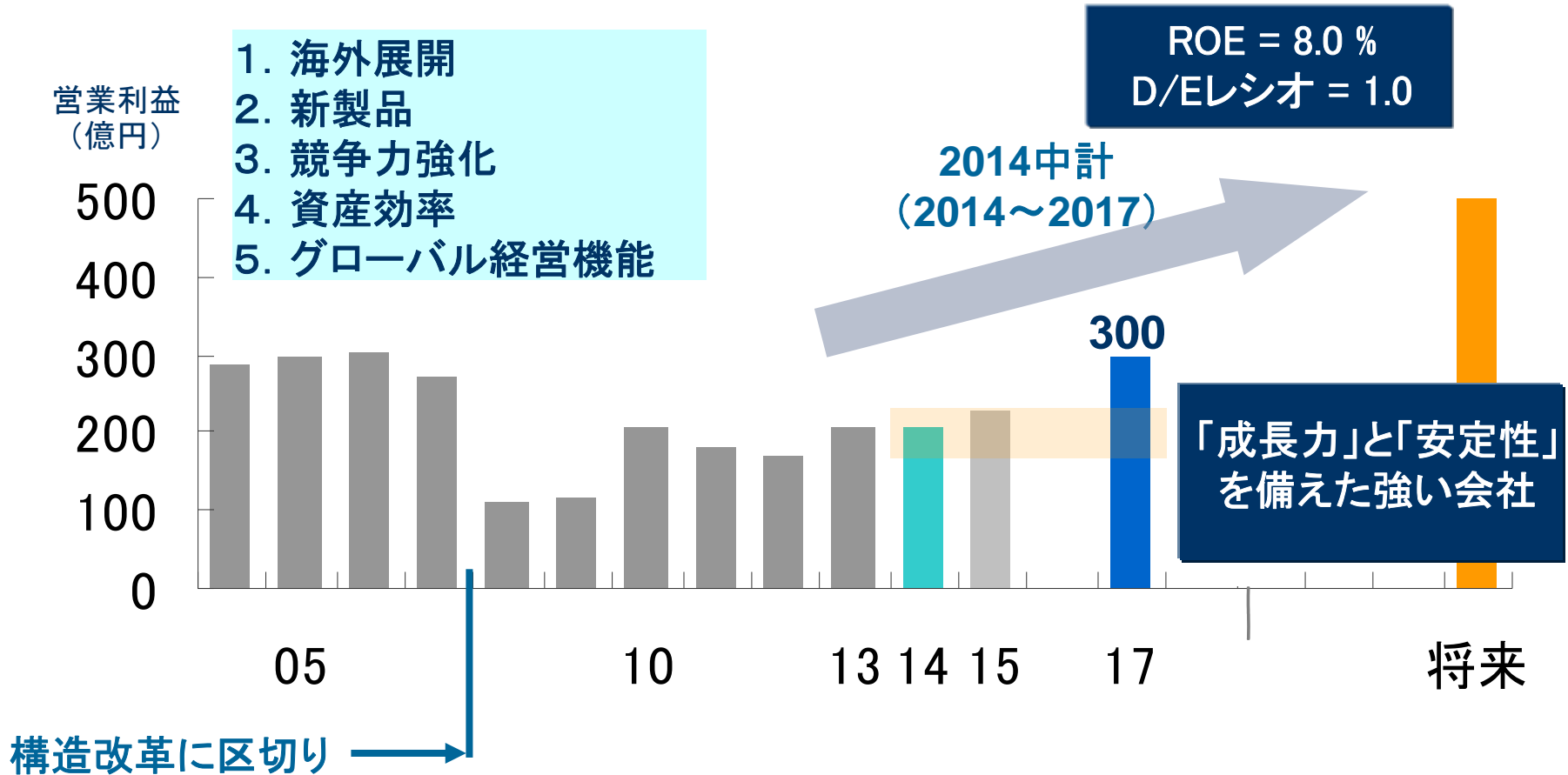
	売上高				営業利益			
	14年度	15年度予想			14年度	15年度予想		
		上期	下期			上期	下期	
フィルム・機能樹脂	1,460	765	760	1,525	70	40	48	88
産業マテリアル	715	353	417	770	66	32	36	68
ヘルスケア	288	135	180	315	50	21	31	52
スペシャルティ計 (営業利益率)	2,463	1,253	1,357	2,610	186 7.6%	94 7.5%	114 8.4%	208 8.0%
繊維・商事	851	438	437	875	23	12	14	26
不動産・その他	199	105	60	165	26	15	12	27
消去・全社	-	-	-	-	-30	-15	-16	-31
合計	3,513	1,797	1,853	3,650	206	105	125	230

※セグメント情報は、組織体制の見直しに伴う、セグメント組換え後の区分方法に基づき作成

Ⅲ. 2015年中計進捗

2014中計の位置付け

将来のめざす姿（売上高5,000億円・営業利益500億円）への成長軌道に乗せるための中計



アクションプラン、重点拡大分野の進捗

1. 海外展開加速

- 診断薬酵素の生産能力増強
新興国における需要増に対応、
拡販活動強化
- タイ／中国／米国 エアバッグ拠点整備
中計後半での拡大に向け、体制強化

2. 新製品の拡大・創出

- 超複屈折ポリエステルフィルム
“コスモシャイン SRF”
- 神経再生誘導チューブ
“ナーブリッジ”



【重点拡大分野】

- 再生誘導材料
 - 骨再生誘導材 歯科口腔外科領域で治験を開始
- フィルム海外展開
 - 高機能包装用フィルム
- 分離膜
 - RO膜＋ FO膜(正浸透膜)



研究開発費
前年比 6.3%増

進捗状況(新製品)

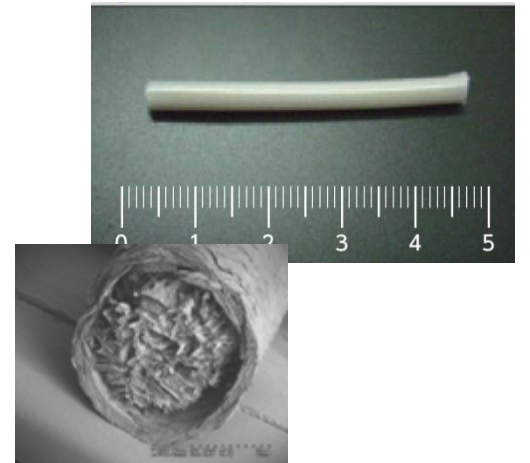
“コスモシャイン SRF”

- 液晶偏光子の保護フィルム用途を中心に展開
- 強み
 - ・ 価格競争力
 - ・ ユーザーでの設備改造不要
 - ・ 低透湿性
- 韓国と台湾で採用拡大、前年同期比増収
- 大手偏光板メーカー、テレビ用途での評価進捗



“ナーブリッジ”

- 国内初の神経再生誘導チューブとして展開
- 特長
 - ・ 「自家神経移植」と同等の効果
 - ・ 適用可能長は世界最長(5cm) ⇔ 米国品 2cm
 - ・ 材料は体内吸収されて消失
- 使用施設数、適用症例数は順調に増加
- 国内販売代理店を複数化も、計画未達
- 普及のための体制強化へ



補 足

訴訟関連

<概要>

- ① 03年6月、ザイロン繊維使用の防弾ベスト事故(米国ペンシルバニア)(貫通事故:1件)
- ② 事故被害者、同種ベスト購入者等が、防弾ベストメーカー、当社に損害賠償請求を提起
- ③ 防弾ベストメーカーの元取締役が米国不正請求禁止法に基づく訴訟を提起、
米国政府(司法省)がこの訴訟に原告として参加
- ④ 事故を起こしたメーカー以外の防弾ベストに関しても、米国政府(司法省)が訴訟を提起

<解決済みの訴訟－いずれも和解による解決>

- ・購入者からの集団訴訟－2005年10月
- ・事故被害者からの訴訟(PL関連訴訟)－2006年から2007年
- ・ドイツ州政府からの訴訟－2009年2月
- ・防弾ベストメーカーからの訴訟－2011年7月(2件)および2012年3月

<訴訟状況>

(2015.11.5現在)

	クラスアクション	PL関連	政府関係		防弾ベストメーカー			政府関係
原告	購入者	警官	アーカンソー州	米国司法省	セカンドチャンス	ポイントブラック	ファーストチョイス	ドイツ州政府
状況	和解成立 (05年10月)	和解成立 (06～07年)	訴状受取後 動きなし	証拠開示 手続済	和解成立 (11年2月)	和解成立 (11年7月)	和解成立 (12年3月)	和解成立 (09年2月)
件数	10件	4件	1件	2件	1件	1件	1件	1件

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社